

要旨

文法化は、語彙的な形式から文法的な形式へ、文法的な形式からより一層に文法的な形式への発展であり、漸次的現象として知られる。ジンポー語の先行研究においても、これまで動詞の文法化に関連する様な事例が報告されてきた。しかし、各事例の関係について先行研究では十分に明らかにされてこなかった。本発表では、文法化のクラインの観点から、ジンポー語動詞の文法化を捉えなおし、様々な事例の関係を明らかにすることを試みる。結論として、動詞の文法化の事例は、語彙的動詞 > 補助動詞 > 助動詞 > 接尾辞のクラインに位置づけられることを報告する。そして、クラインの右に行くにしたがい、脱意味化・分布拡張・脱範疇化・音形縮約という文法化の4つのメカニズムの特徴を示すことを報告する。

キーワード 文法化, クライン, ジンポー語 (シナ・チベット語族: ミャンマー)

1 はじめに

(1) 文法化 (Heine & Kuteva 2002: 2)

the development from lexical to grammatical forms and from grammatical to even more grammatical forms

(2) 文法化の4つのメカニズム (Heine & Kuteva 2002, 2007: 32–46)

desemanticization (脱意味化)・extension (分布拡張)・decategorialization (脱範疇化)・erosion (音形縮約)

(3) 文法化のクライン (Hopper & Traugott 2003: 7)

content item > grammatical word > clitic > inflectional affix

(4) ジンポー語動詞の文法化に関する先行研究

- a. 脱意味化を経た多様な動詞の事例を報告 (Matisoff 1974)
- b. 一部の接尾辞は動詞由来 (DeLancey 1985, 2011, 戴 1996)
- c. 「助動詞」の多くは動詞由来 (戴・徐 1992)
- d. 脱意味化の程度に意味的な濃淡がある (戴 1999)
- e. 脱意味化した動詞に否定辞を付加できるものとできないものがある (倉部 2010)
- f. 脱意味化した動詞のうち9つは、主動詞との語順が自由 (倉部 2010)
- g. Hanson (1906) で動詞として扱われるが現代語で動詞ではない2形式 (倉部 2010)

(5) 先行研究の問題

各事例の関係が十分に明らかにされていない

(6) 本発表

- a. 文法化のクラインの観点から、ジンポー語動詞の文法化を捉えなおし、様々な事例の関係を明らかにする
- b. 各事例は、語彙的動詞 > 補助動詞 > 助動詞 > 接尾辞 のクラインに位置付けられる
- c. クラインの右に行くにしたがい、脱意味化・分布拡張・脱範疇化・音形縮約の文法化の4つのメカニズムの特徴を示す

2 動詞の文法化にかかわる4つのカテゴリ

2.1 語彙的動詞

(7) 動詞の下位類

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)
動作動詞	yes	yes	yes	yes	no	no
状態動詞	yes	yes	no	yes	no	no
形容詞	yes	yes	no	yes	no	yes
到達動詞	yes	yes	yes	no	yes	no
達成動詞	yes	yes	yes	no	no	no
コンピュータ れ	yes	no	n/a	n/a	n/a	no

(8) 動詞下位類の特徴

- (a) 否定接頭辞が付加可能
- (b) アスペクト・ムード標識が付加可能
- (c) 叙述法標識でマークすると過去を表す
- (d) 変化相標識でマークすと起動的 (inchoative) 意味を表す
- (e) 継続相標識でマークすると結果の継続を表す
- (f) 形態統語的標識なしに名詞を統語的に修飾可能

2.2 補助動詞

語彙的動詞が脱意味化・分布拡張を経た形式。全て否定辞の前接が可。大部分は主動詞の前後どちらにも現れうる。例：lù「得る；状況可能」、ce「知る；能力可能」、daŋ「勝つ；可能(万難を排して)」、mai「よい；可能(許可)」、kam「意図する；意志」、má?「尽きる；完了」、jò?「与える；使役・受益」。ただし、khrúm「会う；受身」、gotút「遭う；受身」、rà「必要だ；義務」の3つは、常に主動詞に後続。

2.3 助動詞

語彙的動詞が脱意味化・分布拡張・脱範疇化を経た形式。全て否定辞の前接が不可。全て主動詞に後続。例：to「横たわる；継続」、màt「失う；完了」、ya「与える；受益」、cəŋún「遣わす；使役」、lóm「含む；適用態」、bù?「熱がある；甚だしさ」、si「死ぬ；甚だしさ」

2.4 動詞由来接尾辞

語彙的動詞が脱意味化・分布拡張・脱範疇化・音形縮約を経た形式。例：-l 「所有者一致」 < lù 「得る」 (DeLancey 1985, 戴 1996)、-s 「去辞・変化相」 < sa 「行く」 (DeLancey 1985, 戴 1996)、-r 「来辞」 < #ra 「来る」 (cf. Byangsi 語 ra 「来る」 ; DeLancey 2011)

3 文法化のクライン

3.1 脱意味化と分布拡張

×語彙的動詞、○補助動詞、○助動詞、○接尾辞

(9) 補助動詞

- a. gà mam grày lù-ʔay=ʔi.
INTJ 稲 とても 得る=DECL=SFP
「あら、稲をととてもたくさん手に入れましたね」 (KK1-2773)
- b. úkhúʔ khán=ʔè ɕi=khray khom lù-ʔay.
奥 辺り=LOC 3sg=だけ 歩く 得る-DECL
「奥の方を彼一人で歩くことができた」 (KK1-0691)
- c. ʔwàn ú-khrù lù-ʔay bòʔ tsi-làp...
火 NEG-燃える 得る-NMLZ 種類 葉-葉
「火が燃えない種類の葉草...」 (KK1-2138)

(10) 助動詞

- a. ɕi=gò ʔyùp-rà=kóʔ to=ɲà-ʔay.
3sg=TOP 寝る-場所=LOC 横たわる=CONT-DECL
「彼は寝床に横たわっていた」 (KK1-2161)
- b. bràŋtáy day=gò nóʔ ɕá=to-ʔay.
兎 その=TOP まだ 食べる=CONT-DECL
「その兎はまだ(ご飯を)食べていた」 (KK1-0186)
- c. zàybrù-jaŋ=kóʔ ʔwàn khrù=to-ʔay.
砂-地=LOC 火 燃える=CONT-DECL
「砂地で火が燃えている」 (KK1-0095)

(11) 接尾辞

- a. ɕán la=gò... yíʔ=dèʔ sa-ʔay-dàʔ.
2du 男=TOP 畑=ALL 行く-DECL=HS
「彼ら男2人は畑へ行ったそうだ」 (KK1-1067)
- b. woy=ni=gò day=kóʔ ʔyúp-s-ay=dàʔ.
猿=PL=TOP そこ=LOC 寝る-CSM-DECL=HS
「猿たちはそこで寝たそうだ」 (KK1-2088)
- c. mərəŋ gəbà thùʔ=wà-s-ay=dàʔ.
雨 大きい 降る=VEN-SCM-DECL=HS
「大雨が降ってきたそうだ」 (KK1-1137)

3.2 脱範疇化1：派生形態論の喪失

×語彙的動詞、×補助動詞、○助動詞、○接尾辞

全ての補助動詞は否定辞の前接が可(倉部 2010)。全ての助動詞・接尾辞は否定辞の前接が不可

(12) 語彙的動詞

náʔ gəçà=phéʔ sa **n̩-çədám**=káw=yàŋ=gò...
2sg.GEN 子=ACC 行く NEG-迷わせる=COMPL=COND=TOP
「あなたの子供を行って迷わせないならば...」(KK1-0671)

(13) 補助動詞

ŋay khom **n̩-lû**-ʔay.
1sg 歩く NEG-得る-DECL
「私は歩くことができなかった」(KK1-2323)

(14) 助動詞

*zàybrù-jaŋ=kóʔ ʔwàn khɾù=**n-to**-ʔay.
砂-地=LOC 火 燃える=NEG-CONT-DECL
「砂地で火が燃えていない」

(15) 接尾辞

*mərəŋ gəbà thùʔ=wà-**n-s**-ay=dàʔ.
雨 大きい 降る=VEN-NEG-SCM-DECL=HS
「大雨が降ってこなかったそうだ」(KK1-1137)

3.3 脱範疇化2：自立性の喪失

×語彙的動詞、×補助動詞、○助動詞、○接尾辞

「助動詞」は述語に立つことができない(戴・徐 1992: 140)

(16) 補助動詞

- a. naŋ khom **lû**-ʔay=ʔi?
2sg 歩く 得る-DECL=Q
「あなたは歩くことができましたか？」
- b. **lû**-ʔay.
得る-DECL
「できました」

(17) 助動詞

- a. naŋ khom=**to**-ʔay=ʔi?
2sg 歩く=CONT-DECL=Q
「あなたは歩いていましたか？」
- b. ***to**-ʔay.
CONT-DECL
「いました」

(18) 接尾辞

- a. naŋ khom-s-ʔay=ʔi?
2sg 歩く-CISM-DECL=Q
「あなたは歩きましたか？」
- b. *s-ʔay.
CSM-DECL
「ました」

3.4 脱範疇化3：統語的自由 (syntactic freedom) の喪失

全ての助動詞・接尾辞は主動詞に後続。補助動詞の大部分は主動詞の前後に現れうる (倉部 2010)

(19) 語彙的動詞 (V+Lex ~ Lex+V)

- a. gùy=phéʔ yíʔ=dèʔ woy sa-ʔay.
犬=ACC 畑=ALL 率いる 行く-DECL
「犬を畑へ連れて行った」 (KK1-2438)
- b. ʔù-tsa... mam sa cá-ʔay.
鳥-雀 稲 行く 食べる-DECL
「雀は... 行って稲を食べた」 (KK2-0024)

(20) 補助動詞 (V+補 ~ 補+V)

- a. mənáʔ ʔyúp lù-ʔay.
昨晚 寝る 得る-DECL
「昨晚は寝ることができた」 (KK1-0022)
- b. nday tsáp-wa=gò nday=rám-rám lù ʔyúp-ʔay.
この 熊-人=TOP これ=だけ-RED 得る 寝る-DECL
「この熊はこれほどまで寝ることができた」 (KK1-1531)

(21) 助動詞 (V+助 ~ *助+V)

- a. mà day məkhray ñtsa=kóʔ khom=to-ʔay=dàʔ.
子 その 橋 上=LOC 歩く=CONT-DECL=HS
「その子供は橋の上を歩いていたそうだ」 (KK1-0903)
- b. *mà day məkhray ñtsa=kóʔ to khom-ʔay=dàʔ.
子 その 橋 上=LOC CONT 歩く-DECL=HS
「その子供は橋の上を歩いていたそうだ」

(22) 接尾辞 (V+接尾 ~ *接尾+V)

- a. woy=ni=gò day=kóʔ ʔyúp-s-ay=dàʔ.
猿=PL=TOP そこ=LOC 寝る-CISM-DECL=HS
「猿たちはそこで寝たそうだ」 (KK1-2088)
- b. *woy=ni=gò day=kóʔ s-ʔyúp-ʔay=dàʔ.
猿=PL=TOP そこ=LOC CISM-寝る-DECL=HS
「猿たちはそこで寝たそうだ」

補助動詞の一部は、常に主動詞に後続。この点で助動詞に一步近づいている。ただし、否定辞の前接が可能かつ自立的に現れうるため、脱範疇化はしていない

(23) 助動詞 *khrúm* 「受身」 (V+補 ~ *補+V)

a. *dày-ní ġi sàt khrúm-ʔay.*

今-日 3sg 殺す 会う-DECL

「今日、彼は殺された」 (KK1-0753)

b. **dày-ní ġi khrúm sàt-ʔay.*

今-日 3sg 会う 殺す-DECL

「今日、彼は殺された」

c. *dày-ní ġi sàt ñ-khrúm-ʔay.*

今-日 3sg 殺す NEG-会う-DECL

「今日、彼は殺されなかった」

3.5 音形縮約

(24) 各タイプと音形縮約

	音形縮約	語彙的		文法的
語彙	×	<i>sa</i> 「行く」	>	n/a
補助	×	<i>lù</i> 「得る」	>	<i>lù</i> 「可能」
助動	×	<i>to</i> 「横たわる」	>	<i>to</i> 「継続相」
接尾	○	<i>sa</i> 「行く」	>	-s 「変化相」

4 助動詞と語彙的動詞の共存

(25) 本来の語彙的動詞との共存の観点から、助動詞は次の4つに分類可能

- 本来の語彙的動詞と共存する形式 (e.g., *lóm* 「含む；適用態」)
- 語彙的動詞が部分的に廃れた形式 (e.g., *ya* 「やる；受益」。本来は「やる」の意味を表したが、現代語の語彙的意味は「嫁にやる」に限定)
- 語彙的動詞が完全に廃れたが歴史資料から通時的に動詞であったことが示唆される形式 (e.g., *khát* 「相互」は現代語では語彙的動詞として用いられないが、Hanson 1906 の時点では「口論する」という意味の語彙的動詞)
- 語彙的動詞が完全に廃れたが比較により動詞であったことが示唆される形式 (e.g., *sám* 「推量」は現代語では語彙的動詞として用いられず、歴史資料からも動詞であることが確認できない。ただし、動詞から名詞を派生する接辞 *ñ-* を含む *ñsám* 「様子」などの存在から、本来は動詞であったことが推測可能)

(26) 上記 (25) の各タイプの関係

	歴史的に 語彙的動詞	Hanson 1906 で 語彙的動詞	現代 語彙的動詞
(25a)	○	○	○
(25b)	○	○	△
(25c)	○	○	×
(25d)	○	×	×

(27) 上記 (25) の各タイプの通時的発展順序の可能性

25a > 25b > 25c > 25d

5 まとめ

(28) ジンポー語動詞の文法化クライン

語彙的動詞 > 補助動詞 > 助動詞 > 接尾辞

(29) 各カテゴリの特徴

	語彙的動詞	補助動詞	助動詞	接尾辞
脱意味化	×	○	○	○
分布拡張	×	○	○	○
脱範疇化	×	×	○	○
音形縮約	×	×	×	○

(30) ジンポー語動詞の文法化クライン (細別)

語彙的動詞 > 補助動詞 (20 > 23) > 助動詞 (25a > 25b > 25c > 25d) > 接尾辞

(31) 各カテゴリの特徴 (細別)

	語彙的	補助 1	補助 2	助動 1	助動 2	接尾辞
脱意味化	×	○	○	○	○	○
分布拡張	×	○	○	○	○	○
統語位置固定	×	×	○	○	○	○
否定辞前接不可	×	×	×	○	○	○
非自立性	×	×	×	○	○	○
語彙的動詞不共存	×	×	×	×	○	△
音形縮約	×	×	×	×	×	○

略号 Leipzig Glossing Rules にないもの: CONT (継続相); CSM (変化相); VEN (来辞)

例文 KK1 または KK2 から始まる例文は Kurabe (2013, 2017) 収録の実例による。

附記 本稿は科学研究費補助金 (課題番号 JP20K13024) による研究成果の一部である。

参考文献

- 戴慶厦. 1996. 景頗語の実詞虚化. 《中央民族大学学报》1996.4.
戴慶厦. 1999. 景頗語的連動式. 《民族教育研究》1999(S1): 1-8.
戴慶厦・徐悉艷. 1992. 《景頗語語法》. 北京: 中央民族学院出版社.
DeLancey, Scott. 1985. The analysis-synthesis-lexis cycle in Tibeto-Burman. In John Haiman (ed.) *Iconicity in syntax: Proceedings of a symposium on iconicity in syntax, stanford, June 24-26, 1983*, 367-389. Philadelphia: John Benjamins.
DeLancey, Scott. 2011. Nocte and Jinghpaw: Morphological correspondences. In Gwendolyn Hyslop, Stephen Morey, and Mark Post (eds.) *North East Indian Linguistics 3*, 61-75. New Delhi: Cambridge University Press India.
Hanson, Ola. 1906. *A dictionary of the Kachin language*. Rangoon: American Baptist Mission Press.
Heine, Bernd and Tania Kuteva. 2002. *World lexicon of grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.
Heine, Bernd and Tania Kuteva. 2007. *The genesis of grammar*. Oxford: Oxford University Press.
Hopper, Paul J. and Elizabeth C. Traugott. 1993. *Grammaticalization*, 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.
倉部慶太. 2010. 「ジンポー語における動詞連続の文法化」『地球研言語記述論集』2: 15-37.
Kurabe, Keita. 2013. Kachin folktales told in Jinghpaw. Collection KK1 at catalog.paradisec.org.au [Open Access].
<https://dx.doi.org/10.4225/72/59888e8ab2122>
Kurabe, Keita. 2017. Kachin culture and history told in Jinghpaw. Collection KK2 at catalog.paradisec.org.au [Open Access].
<https://dx.doi.org/10.26278/5fa1707c5e77c>
Matisoff, James A. 1974. Verb concatenation in Kachin. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 1.1: 186-207.